

第272回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成22年10月18日（月）午前11時より
- 2 開催場所 テレビ新潟 会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員5人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
笠井 明	委員	吉原 浩	委員
尾畑 留美子	委員		

会社側出席者

代表取締役社長	前川 磐
専務取締役（報道・制作・国際担当）	奥野富士郎
常務取締役（営業・事業・編成担当）	永原 良太
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	駒形 正明
報道制作局長	竹石 尚史
報道制作局次長 兼 報道制作部長	稲田 裕之
編成部長	中川 保彦
合評番組プロデューサー	斉藤 将彦
事務局	海津 智洋 紫竹 聡子 水野 明子

4 議 題

1) 番組合評

「夕方ワイド新潟一番 15周年ありがとうスペシャル」

[放送 : 10年10月2日(土) 10:30~11:25]

(説明 : 番組プロデューサー 斉藤 将彦)

2) 会社報告

①9月の視聴者の意見。 (報告 : 視聴者相談室長 海津 智洋)

②講じた措置、公表など定例の報告等。 (報告 : 事務局)

3) その他

5 審議の概要 (委員の意見)

会社側から、この番組は夕方ワイド「新潟一番」が誕生してちょうど15周年にあたる10月2日に放送したもので、県民に感謝の気持ちを伝えるというテーマで制作した企画であること。来る11月に行われる「TeNY博だよ！新潟一番！！」という大型イベント番組に向けた前哨戦として制作したものであること。通常の「新潟一番」で初めて行う企画の4本柱「カップ麺の製作」「『新潟一番の歌』の制作」「栗林アナ100kmマラソン企画」「デカ盛りストーリー」を、11月開催「TeNY博」のPRとして「ありがとうスペシャル」という形で放送したことなどを報告した。

●「ありがとうスペシャル」は制作現場の様子がよく出ていて

たいへん親近感の湧く番組スタートだったと思った。

●15周年と30周年。この二つの大きな柱があって、それに対してTeNYという企業がどういう気持ちで迎えようとしているのかというところが良くわかった。番組の中身も非常に明るく、楽しいし、健康的でしかもチャレンジ精神があって、挑戦していくんだという要素がたくさん見えてきた。

●カップ麺企画は諸橋アナの明るいキャラクターが実に合っていて、美味しそうに食べる彼女は食べ物の企画には最適であると改めて再認識した。

●カップ麺企画自体は面白いと思ったが、その後続くデカ盛り企画がカップ麺の後だけにお腹一杯になり過ぎた感じがあって、もったいない気がした。

●企画ラーメンのCMを良く見るが、食料品をテレビ会社が作って売るとするのは珍しいのではないかと思う。期待して見ていきたいと思った。

●カップ麺企画はうまく練り上げられていた。北海道や宮城県白石市まで出かけて行っており、実に手間ひまをかけていると思った。

●カップ麺では県外に出かけて行ったが、地産地消ということで新潟県内で出来なかったのかなと疑問に思った。

●なぜカップ麺作りなのか、よくわからなかった。が、カップ麺作り自体は企画の段階から製造のプロセスを一連で見せてくれたのはわかり易かったと思った。

●栗林アナウンサーが100km走るということを「今、はじめて聞きました」とコメントするシーンで涙目であったのがたいへん印象的だった。

●なぜ、100kmマラソンなのか、意味と必然性がわからなかった。栗林アナウンサーの走りは5月の柏崎のマラソン参加にはじまり、南魚沼のマラソンや妙高高原笹ヶ峰トレイルランニングに参加しての頑張りは素晴らしかったが、番組内でのビッグスワンでの走りは淡々として期待とは違っており、このギャップが大きかったのは残念だった。

●栗林アナウンサーは入社二年目だけに、ひたむきな走りとは初々しさが出ていた。「100kmマラソン挑戦」を伝えられた時の表情が、10kmを走り終えた充実の笑顔と弱り目に祟り目の混ざった感じですべてを物語っていたと思った。

●二年目の栗林アナウンサーに100km走れってというのは全くたいへんなことだけれど、そうではなくて「TeNYはこれから100km、200km走っていくんだよ」って、こういう若い人達の力をベースにしてこれから挑戦していくんだってことが読み取れると思った。

●企画4本柱のうち、一番印象に残ったのは新潟一番の歌制作プロジェクトだった。県民の皆さんによる作詞、芥川賞作家藤沢氏の補作で、良い歌詞ができたと思った。歌では「ここで生まれ、ここで育ち」と歌詞であるだけでなく、「ここで暮らし、ここで過ごし」とあって転勤族など地元以外の人への目配りも行き届いていると思った。

●新潟一番の歌では作詞を募集したのは良かったが、あまりにも曲が綺麗すぎたのではないか。もう少し新潟らしく泥臭くても良かったのではないかと思った。作曲と歌唱を担当する渋谷氏の紹介を改めてして欲しかった。

●デカ盛りストーリーはゲテモノというイメージがある。もっ

と美味しそうなもの、新潟での特産などを紹介したほうが良かったのではないかと思った。

●総じて言えばマラソンを縦軸にした同時進行で、立体的な構成が目を引いた。新潟一番の歌、新潟一麺ともにテレビならではの楽しみを与えてくれたと思った。

●全体を通して 15 周年、30 周年というこれからの歴史を踏まえた次へのステップで、TeNY のアイデンティティがこの中に面白おかしく健康的に散りばめられているという感じがした。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

9月……139件。

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成 22 年 9 月 27 日) から 昨日(平成 22 年 10 月 17 日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回、第 271 回審議会では「夕方ワイドニュースコーナー 参議院選挙企画～一票の現場から～」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

8 今回の第 271 回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

- 2) 当社のニュースで審議会の概要を放送しました。
- 3) インターネットのTeNYホームページに議事概要を掲載しました。

9 参考事項（委員への配布資料）

- ・ 9月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・ 9月の単発番組制作一覧
- ・ 民間放送新聞（9/23, 10/3, 10/13号）

以上